

## シンプル生理学 改訂第8版 第2刷 正誤表

下記の箇所に誤りがありました。謹んでお詫びし訂正いたします。

頁	行, 箇所	訂正前	訂正後
p13	本文 上から2行目	約600兆個	約 <u>60</u> 兆個
p32	図2-25 タイトル	光遺伝子学により	<u>光遺伝学</u> により
p55	本文 上から5行	消化管, 子宮, 膀胱, 尿管, 卵管, 輸精管などのような	消化管, 子宮, 膀胱, 尿管, 卵管などのような
p55	本文 下から4行目と5行目	徐派	<u>徐波</u>
p56	本文 上から10行目	伸展刺激によりか開口し,	伸展刺激により開口し,
p59	本文 上から3行目	脊椎管	<u>脊柱管 (脊椎管)</u>
p60	本文 下から2行目	これを筋節 (サルコメア) という	これを筋節 ( <u>ミオトーム</u> ) という
	本文 下から11行目の見出し	3. 皮膚節と筋節	3. <u>皮膚分節</u> と筋 <u>分節</u>
p83	本文 上から1行目	そのうちでもにおいのある物質は	そのうちでもにおいの <u>元になる物質 (におい分子)</u> は
p83	本文 上から9行目	約450万種と膨大であるが,	<u>先述したように膨大な数があるが,</u>
p84	本文 上から10~11行目	これらは4基本味とされてきたが, 最近「うま味」が認知され, 5基本味とされた.	<u>従来これらを4基本味としていたが, 後に「うま味」が加えられ, 5基本味となった.</u>
P84	本文 上から13~14行目	新しい研究では苦みは舌根部よりも舌尖部で閾値が低いことがわかった. うま味についてはいまだ不明である.	<u>2000年以降の研究により舌全体の味蕾が5種の味覚受容器を持つ味細胞を持っていることが明らかにされた.</u>

	本文 下から1～2行目	新皮質中心後回基底部の顔面からの皮膚感覚感受部位に至る (図6-33) .	新皮質中心後回 <u>の体性感覚野の下部に接した部位にある一次味覚野 (ブロードマンの43野, 図9-14参照) に至る.</u>
	「図6-33 味覚の伝導路」の図中文字	大脳皮質	大脳皮質 <u>一次味覚野</u>
p86	本文 上から14～15行目	A $\delta$ 線維である.	A $\delta$ 線維と <u>無髄のC線維</u> である (図6-36, 表2-1参照) .
P88	図6-38 「延髄」の部分	楔状束核	<u>薄束核</u>
		薄束核	<u>楔状束核</u>
p94	本文 下から5行目	皮膚節	皮膚分節
	本文 下から5～6行目	皮膚節の規則	皮膚分節の規則
p97	表7-2 $\alpha_2$ 受容体の特徴	Gi, cAMP $\uparrow$	Gi, cAMP $\downarrow$
p106	本文 下から2行目	II, III, IV群以下の細い線維で	<u>II, III, IV群の細い線維で</u>
p111	本文 上から3行目に一文を追加		<u>両側前庭迷路機能障害者では, 床面が傾いても前庭迷路反射が起こらないので, 身体の平衡と頭位の回復ができず, 転倒してしまう (図8-13b) .</u>
p115	本文 上から8行目と11行目の冒頭	線状体	<u>線条体</u>
p145	本文 上から5行目	まず核小体において	まず <u>核</u> において
p213	本文 上から5行目と6行目	①消化酵素の分泌を行い, それにより異化を行う化学的消化 ②種々の消化管の運動による物理的消化	①消化管から分泌される消化液に含まれる酵素作用により分解する化学的消化 ②種々の消化管運動により分解する物理的消化
p214	本文 上から5行目	消化管壁は, 内側から, <u>粘膜, 筋層, 外層 (漿膜)</u> の3層からなる.	消化管壁は, 内側から, <u>粘膜, 粘膜下組織, 筋層, 漿膜 (外層)</u> の4層からなる.

p214	本文 上から6～7行目	粘膜は、 <u>上皮</u> 、 <u>粘膜固有層</u> （ <u>上皮結合組織</u> ）、 <u>粘膜筋板</u> および <u>粘膜下層</u> （ <u>粘膜下組織</u> ）から構成される。	粘膜は、 <u>粘膜上皮</u> 、 <u>粘膜固有層</u> 、 <u>粘膜筋板</u> から構成される。
p214	図13-3		欄外の図に差し替え
p215	本文 上から11行目	脳幹および脊髄から <u>胃腸管</u> への	脳幹および脊髄から <u>消化管</u> への
p215	本文 下から5行目	空間的/時間的に <u>局性</u> を厳密に特定しにくい。	空間的/時間的に <u>局在性</u> を厳密に特定しにくい。
p219	本文 下から9～10行目	下腹神経と陰部神経は内・外肛門括約筋を収縮させ、骨盤神経は内肛門括約筋を弛緩させる。	下腹神経と陰部神経の <u>興奮</u> は内・外肛門括約筋を収縮させ、骨盤神経の <u>興奮</u> は内肛門括約筋を弛緩させる。
p268	本文 上から16行目	血管の直径の4乗	血管の <u>半径</u> の4乗
p287	本文 下から3, 4, 6行目	機能的残基量	機能的残 <u>気</u> 量
	「図16-9 肺と胸壁の圧－容量関係」の図中文字と解説文	機能的残基量	機能的残 <u>気</u> 量

(2026年3月16日 株式会社南江堂)

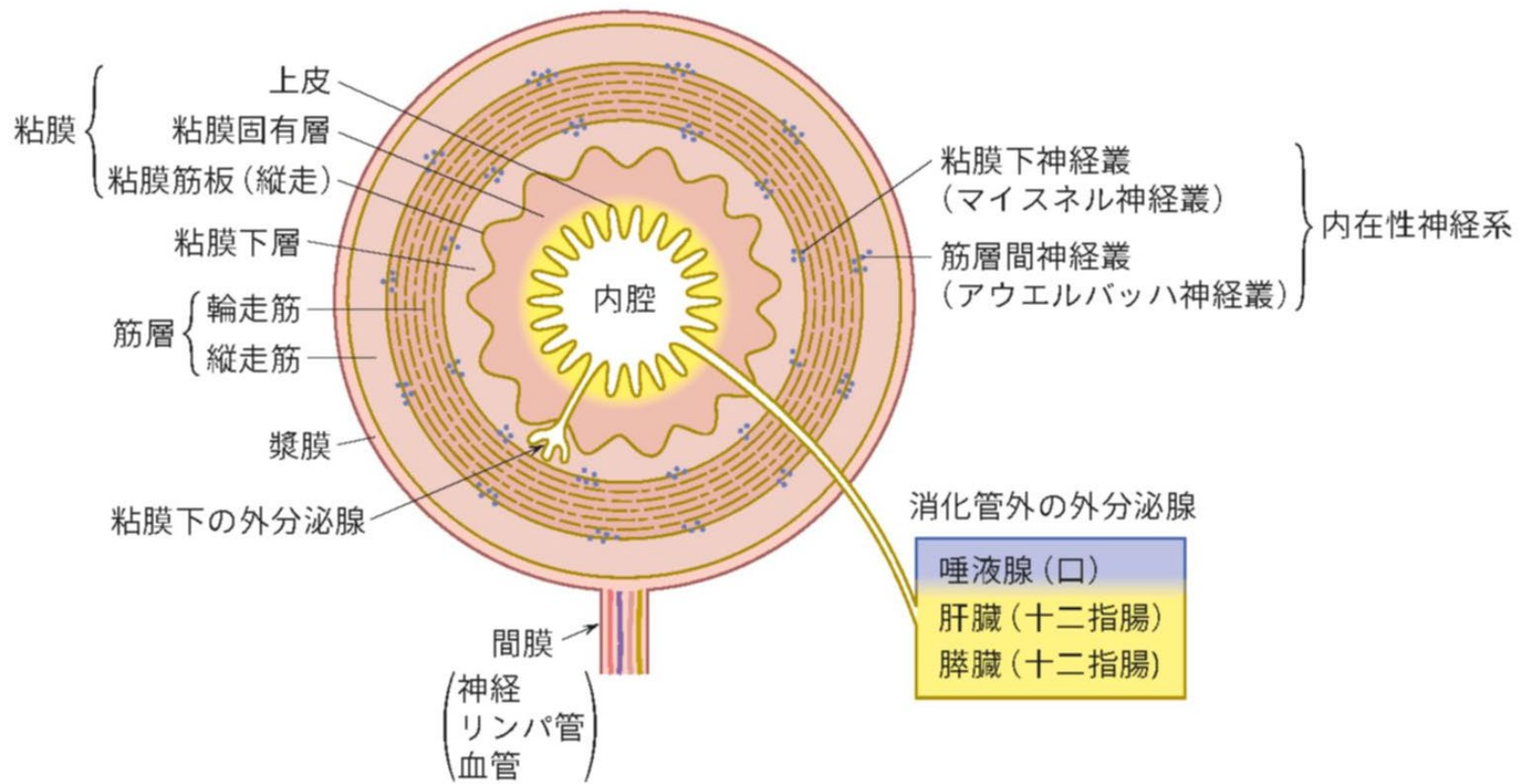


図 13-3 消化管の基本構造